



# 船外機 A10E 取扱説明書



**この取扱説明書は大切に保管してください。**

製品の品質向上の為予告なく仕様が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

## 安全にお使いいただくために

- 船舶安全法に基づき、船舶検査が必要な場合は検査を受けてください。
- 出発前に必ず法定安全備品とスペアパーツを携行しましょう。
  1. ライフジャケット、救命ブイ、アンカー、ロープ、バケツ、工具、パドル、消火器、呼子、発煙筒、予備燃料、ラジオ、携帯電話、その他
  2. スペアパーツ(スパークプラグ、プロペラ、シャーピン、割ピン)
- ボートの最大搭載馬力を超える船外機の取付けは、絶対行わないでください。
- 初めて船外機をお使いになる方は勿論、今まで船外機をお使いになった方でも、メーカーや機種によって、操作方法が異なる部分がありますので、必ず事前に取扱説明書をよく読みましょう。
- 使用前後の点検及び定期点検を必ず実施してください。
- ボート等の説明書も参照してください。
- 船外機の改造は、絶対行わないでください。重大な事故につながる場合がございます。
- 排気ガスは一酸化炭素を含み中毒を起こすおそれがあります。ボートハウスなど閉め切った場所では始動しないでください。
- プロペラに接触すると、負傷または死亡する恐れがあります。船外機のシフトが中立（ニュートラル）の時でもプロペラは回転を続ける可能性があります。またプロペラが止まっている状態でも、鋭利な縁で身体を切る恐れがあります。
- ボート付近に遊泳者がいるときは、直ちにエンジンを停止してください。
- エンジンが停止している時でも、プロペラの回転範囲内に近づかないようにしてください。

## 運転前の確認

- 燃料が少ない場合には燃料タンクの外側から燃料の量を確認してください。
- 給油口ギリギリまで給油しないでください。
- エレメントが汚い場合は、混合燃料または、エアクリーナーエレメントのほこりを確認してください
- ボルト・ナットが緩んでいないか確認し、必要に応じて締めなおしてください。

## 安全航行上の注意

- 海上衝突予防法、港則法、その他（地域規定等）法規を守りましょう。そしてボートマンとしてのマナーを守りましょう。
- お酒や薬を飲んで運転しないでください。飲酒運転は、ボートによる死亡事故の代表的な原因の一つです。
- 海水浴場等遊泳中の人がいる場所では、運転しないでください。水泳、水上スキー、ダイビングなどをして遊泳者に、常に注意をはらってください。ボートの周辺に人がいるときは、プロペラが回転しないようエンジンを停止してください。
- 定員を守って、乗船時は必ずライフジャケットを着用しましょう。
- 荷物の積み過ぎや、乗員の重量配分を考えると同時に船内移動は慎重にしましょう。
- 急加速、急減速は、同乗者やエンジンのためにもよくありません。また、高速旋回などは船の転覆をも起こしかねません。常に安全速度で運転しましょう。
- 燃料は非常に引火しやすく、爆発性もありますので取扱いには十分注意してください。
- 港を出る前に、運行予定を家族、知人、マリナー等に知らせておきましょう。帰港したら、関係者に帰港の連絡をしてください。
- 同乗者にも緊急時の対処及び操作方法を覚えておいてください。
- 海の気象は変わりやすいものです。行動する前には、必ず天気予報を確認して計画を立てましょう。
- 故障は常に行き届いた点検整備により未然に防止することができます。不安な箇所がありましたら販売店に連絡して、専門技術者におまかせください。
- 海事関係の団体等から出版されている船舶関連の安全教本も合わせて読んでください。

## 各部の名称 A10E

- ①プロペラ
- ②メインロッド
- ③方向転換制限ブロック
- ④クランプブラケット
- ⑤メインサポートフレーム
- ⑥スイッチ
- ⑦ハンドル
- ⑧スピード切替付きグリップ
- ⑨エンジン
- ⑩タンク
- ⑪プライマリーポンプ
- ⑫チョーク



## 船外機の取付け

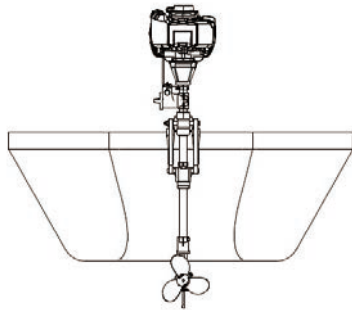
### 警告

- ボートの最大搭載馬力を越える船外機を搭載すると、操縦が不安定になり、転覆等の危険があります。船外機出力に適合したボートに取付けてください。ボートの最大搭載馬力が不明の場合は、ボートメーカーにお問い合わせください。
- 取扱説明書に従って船外機を取付けてください。従わない場合、操作性の悪化や制御不能、または火災などの危険な状況におちいるおそれがあります。
- クランプスクリューや取り付けボルトの締め付け不足は、船外機の脱落を引き起こし、制御しきれなくなるか、または重大な事故を引き起こします。ボルト等が規定トルクに締められているか、確認してください。また、増締めを時折行ってください。
- 船外機の取付けは専用部品を使用してください。
- 船外機の取付けは訓練を受けた人が、専用の機器を使用してください。作業に不安のある場合は販売店にご相談ください。
- 船外機の取付けが不完全な場合、船外機が脱落するおそれがあります。事故の原因となりますので、船外機取付用ボルト・ナットは確実に締めてください。また、長時間による使用でボルト・ナットが緩くなることがあるので定期的に増し締めをしてください。

## 船外機の角度調整

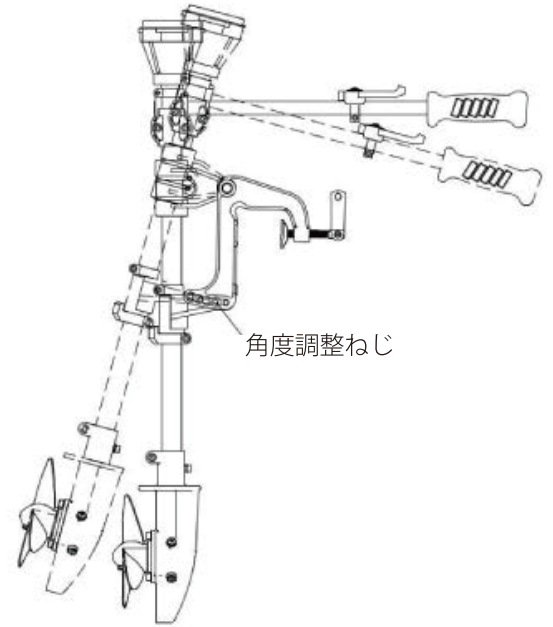
●船外機の駆動角度を変化させることにより、船舶の船首が上昇または下降させることができます。

→角度調整ねじを緩めることで角度の調整ができます。



### ■取り付け位置

・船尾の線幅中央に取り付けましょう



角度調整ねじ



× 角度不足



◎角度不足



× 過度な角度

## エンジンの始動方法

1. 本体のエンジンスイッチを「ON」
2. チョークを引き (Cold start へ)、プライマリーポンプを数回押して燃料を送ります。
3. スターターを軽く引き抵抗が感じられたら思いっきり引いてください。
4. エンジンが始動したらチョーク・スターターを戻します (Warm start へ)。

※エンジンが始動してもすぐに停止してしまう場合

- チョークが戻っているか確認しましょう。
- プロペラが障害物などでブロックされていないか確認しましょう。
- 点火プラグを点検し、汚れている場合はきれいにしましょう。
- それでもエンジンが停止するようであれば専門業者にご相談ください。

## ⚠ 注意

- ギアが入った状態でエンジンを始動すると、不意にボートが動き、同乗者の船外への落下や転倒を招く恐れがあります。ギアが入っている状態でエンジンが始動した場合は、速やかにエンジンを止めて航行を中止してください。
- 長時間連続のスターターモーターの操作はスターターモーターの寿命を縮めます。5秒以上クランキングしてもエンジンが始動しない場合は、10秒以上待ってから再始動にとりかかって下さい。
- エンジンが始動したら、絶対にスターターモーターを回さないでください。

## 運転と操作

### ■燃料の残量

航行に必要な燃料を十分積んでいることを点検してください。燃料消費の良い目安は、三分の一で目的地に達し、帰路用に三分の一を使用し、残る三分の一は非常用予備としておくことです。トレーラまたは水上で水平に保持し燃料残量を点検してください。

### ■燃料漏れの点検

燃料系統は定期的に燃料漏れ、ひび割れや故障の有無を検査する必要があります。

1. キャブレターの漏れ、燃料ホースの亀裂やその他損傷の有無
2. 燃料ポンプの故障や漏れ。燃料フィルタの漏れ
3. 燃料タンクの漏れ。燃料コネクタの漏れ
4. 燃料ホースジョイントの漏れ。プライマリーポンプの漏れや損傷
5. 燃料ホースの亀裂やその他の損傷

### ■携行缶とそのフィルターの清掃

- ・半年に一度は、燃料タンクを空にして洗剤を少量注ぎ、それを振ってタンク内を清掃することを推奨し得られます。キレイな水で内部をすすいだあと、完全に排出しましょう。洗浄を繰り返し、すべての洗剤がタンク内から除去されるまで手順を数回くりかえします。
- ・エンジン燃料フィルターは 20 時間の使用ごとに清掃を推奨しています。
- ・フィルターの清掃は頻繁に行ってください。
- ・フィルターを取り外す前に、エンジンを停止し、タバコ等の火気またはその他の発火源から遠ざけます。

### ■燃料タンクへの給油

- ・ガソリン及びそれが気化した蒸気は極めて引火性が高く、爆発の恐れがあります。火災や爆発の危険を回避するために、常に気を付けましょう。
- ・ガソリンには毒性があり、傷害、死亡に至る恐れがあります。取り扱いには十分に注意を払ってください。口でガソリンを吸い上げることは絶対にしないでください。
- ・万一、ガソリンを飲み込んだり、多量の揮発蒸気を吸ったり、または目に入ったりした場合、ただちに医師の診断を受けてください。万一、ガソリンが皮膚にこぼれた場合、石鹼水で洗い落としてください。衣類などについた場合は速やかに着替えてください。



- 燃料を入れすぎないようにしてください。入れすぎた場合、温度の上昇によって、燃料が膨張し溢れることがあります。

## 製品仕様

エンジン	2ストローク
排気量	43cc
最大出力	1.25kw / 4000~5000rpm
スタート方式	リコイルスターター
点火方式	CDIシステム
燃料	混合ガソリン (25:1)
ガソリン容量	1.2L
プロペラ	7-1/4×5-A インチ